

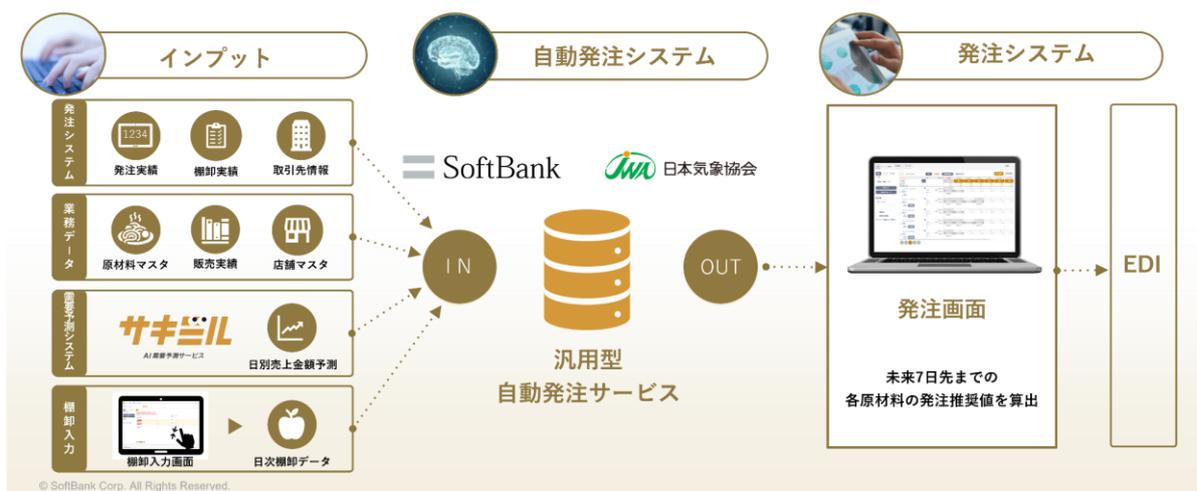
AI 需要予測サービス「サキミル」にて AI 自動発注サービスを提供開始 ～飲食・小売業での発注業務高度化と在庫最適化を実現しフードロス削減に貢献～

一般財団法人 日本気象協会（本社：東京都豊島区、理事長：渡邊 一洋、以下「日本気象協会」）は、2022年1月にソフトバンク株式会社（本社：東京都港区、代表取締役 社長執行役員 兼 CEO：宮川 潤一、以下「ソフトバンク」）と共同開発した AI 需要予測サービス「サキミル」にて、飲食・小売業向けの AI 自動発注サービスの提供を2026年3月30日（月）から開始します。

AI 自動発注サービスを利用することにより、従来は経験や勘に依存することが多かった発注業務をデータに基づいて行うことが可能となり、在庫最適化を通じて飲食・小売業におけるフードロス削減に貢献します。

AI需要予測サービス「サキミル」AI自動発注

来店客数の予測に気温や商品の価格を加味して「発注推奨値」を算出



・「サキミル」の高精度な売上予測を活用

サキミルで算出した来店・売上予測データをもとに、天候や過去発注実績などのデータを加味した予測を実施し、精度の高い発注推奨値を算出します。

・現場運用を意識した設計

日々の棚卸入力を活用することで、複雑な操作や管理を不要とし、現場負担を抑えた運用を実現します。また、発注担当者は提示された発注推奨値を確認し、必要に応じて調整することも可能です。

・既存発注システムとの連携

既存の発注システムと連携し、発注推奨値の確認から確定までをスムーズに行うことができます。日々の発注業務に組み込みやすい構成とすることで、現場への定着を図ります。

※本自動発注サービスは、AI 需要予測サービス「サキミル」の来店・売上予測とは異なるサービスです。来店・売上予測の利用には別途契約が必要です。

■背景と目的

飲食・小売業界では、フードロス削減を目的に、発注業務の効率化と精度向上が重要な経営課題となっています。経験や勘に依存した発注は、余剰在庫によるフードロスや在庫不足による収益機会損失の原因となる可能性があります。特に複数店舗を展開する事業者では、店舗ごとの判断基準のばらつきにより、在庫水準の最



適化やフードロス削減を全体最適の視点で実現することが難しいという課題があります。

日本気象協会はこれまでソフトバンクと、サキミルを活用した飲食・小売業での導入・実証を通じて、需要予測の精度向上に取り組むとともに、予測データを店舗運営に活用するためのデータ活用の知見を蓄積してきました。こうした取り組みを経て得られたノウハウをもとに今回、発注業務の高度化を目的とした AI 自動発注サービスを新たに開発しました。

■AI 自動発注サービス概要

AI 自動発注サービスは、来店客数の予測に気温や商品の価格を加味して発注推奨値を算出。従来は発注担当者の勘や経験値によって行われていた発注業務が、「サキミル」の高精度な売上予測データを活用することにより高度化されることで余剰在庫の削減に寄与し、フードロス削減に貢献できます。

■「サキミル」に関する関連サイト情報

・「サキミル」開始に関する報道発表

<https://www.jwa.or.jp/news/2022/01/15705/>

・「サキミル」サービスサイト

<https://www.softbank.jp/biz/services/analytics/sakimiru/>

以上